

ロッテの「金庫番」小林正元社長、突然の辞任理由は？

記事入力 2016-07-29 16:14 | 記事修正 2016-08-02 16:05:17

ロッテグループの「金庫番」として知られる、小林正元ロッテキャピタル社長（66・写真）が突然辞任した。ロッテグループに対する検察の捜査に加速度が加わっている状況で突然辞任し、その背景に関心が集まっている。ただし、日本のロッテホールディングスの最高財務責任者（CFO）職はそのまま維持していることが分かった。



29日、金融圏と財界の関係者によると、ロッテグループの「金庫番」として検察の捜査線上にある小林社長が社長を退いた。

小林社長は韓・日ロッテを網羅する、ロッテグループの持株会社であるロッテホールディングスのCFO職を兼ねており、日本の従業員株主会を動かす幕後の実力者としてあげられる。

小林社長は日本の一橋大学時代法学部を出て、三和銀行やUFJ銀行を経た本格的な日本の金融人だ。2003年に辛東彬（シン・ドンビン）ロッテ会長に抜擢され、韓国ロッテキャピタル常務の席に上がったが、2004年にロッテキャピタル代表取締役役に選任された。ロッテグループの国内系列会社の中では唯一の日本人最高経営責任者（CEO）として、ロッテキャピタル代表を12年のあいだ務めてきた。

小林社長はシン・ドンビン会長と辛東主（シン・ドンジュ）前日本ロッテホールディングス副会長の経営権争いの過程で、「背後の人物」として注目を浴びてきた。シン・ドンジュ元副会長は、「シン・ドンビンと佃（日本ロッテホールディングス社長）、小林が力を合わせて私を切り、父（辛格浩総括会長）を連れて行った」と語ったことがある。

ロッテグループの秘密資金に対する検察の捜査が開始された後は、小林社長とロッテキャピタルが韓・日ロッテの秘密資金造成の核心窓口でありうるという疑惑が提起され、いま一度注目を集めた。

小林社長の辞任は、検察の捜査がピークに達する状況で行われたことであり、その背景に関心が集まっている。一部では、小林社長が検察の捜査を避けるために、意図的に韓国ロッテキャピタルの社長を退いたという観測も出ている。

小林社長は検察の捜査が本格化した昨年 6 月以降は日本にわたり、現在は日本に滞在している。韓国に入ってくることになるとうと検察の召喚が避けられないために、自ら社長を下りたわけだ。

これとあわせて、「国籍論難」にさらされたロッテグループは、韓・日間のつながりを解消するための次元で、小林社長の辞任を勧めたことがありうるという話も出ている。

財界関係者は、「小林社長は日本のロッテホールディングスの CFO 職はそのまま維持していることが分かった」と語った。

[チェ・スンジン記者]

[Maeil Business Newspaper & mk.co.kr, All rights reserved]

毎日経済新聞日本語版は専門翻訳会社 O2CNI で代行しています。原文と翻訳の間に多少の違いがあり得ます。